

(2) 報告事項① 会津美里町地域公共交通網形成計画に係る令和3年度の取組評価について

【資料2】

方針	数値指標	目標値の設定根拠	目標値設定の考え方	単位	目標値(R7)	計画書記載現状値(H29)	令和2年度実績値	令和3年度実績値	現状値の算出方法	資料・出典	備考
基本方針① 町民の生活と交流を支える地域公共交通の構築	路線バス利用者数	路線バスの利用者数から、町民の日常生活に必要な移動手段が維持・確保されているかを評価する。	現状維持	人/日	844	844	600	596	令和3年度6月、8月、10月、3月に実施した乗降調査結果の平均		
	美里あいあいタクシーの利用者数	地域内交通の利用者数から町民の移動ニーズに即しているかを評価する。	増加	人/年	28,000	24,954	23,133	22,235	平日利用者数：18,865人 休日利用者数：3,370人		
基本方針② 利用者ニーズに合わせた便利で快適な公共交通の構築	ユニバーサルデザイン車両の導入率	利用しやすい環境づくりが図られているかを評価する。	増加	%	100	60	84.3	82.1	美里あいあいタクシー：車両数6台、うちUD車両数3台 路線バス：美里町内運行車両数22台、うちUD車両数20台 合計：美里町内運行車両数28台、うちUD車両数23台 = 82.1%		
	交通拠点における乗り継ぎ環境の整備箇所数	乗り継ぎ拠点の整備状況から、まちづくりと連動した地域公共交通が構築されているかを評価する。	増加	カ所	8	3	6	6	①じげんプラザ ②本郷庁舎 ③新鶴庁舎 ④情報センター「まっぺらん処」 ⑤高田インフォメーションセンター ⑥本郷インフォメーションセンター		R2.10.1～本郷庁舎、新鶴庁舎へ路線バスの乗り入れ開始
	交通拠点における乗降者数	乗り継ぎ拠点の利用状況から、まちづくりと連動した地域公共交通が構築されているかを評価する。	増加	人/日	50	39	39	27	・路線バス乗降調査結果及び美里あいあいタクシーデータベースから算出 ・算出日は乗降調査に近い日付で算出 ・主要な交通拠点（じげんプラザ、情報センター「まっぺらん処」、本郷庁舎、新鶴庁舎、高田インフォメーションセンター、本郷インフォメーションセンター）における路線バス及び美里あいあいタクシーの乗降者数を把握する。		
基本方針③ まちづくりと連動した地域公共交通の構築	多様な分野・主体と連携した利用促進の取り組み件数	多様な主体と連携した利用促進策の取り組みが展開されているかを評価する。	増加	件/年	3	1	5	4	教育分野との連携により、町内4つのこども園にて路線バスの乗り方教室を実施し、路線バスの利用促進を図った。		
基本方針④ 将来的に持続可能な地域公共交通の構築	公共交通の運行に関する町負担額の維持	持続可能な公共交通網が形成されているかを評価する。	現状維持	千円/年	26,272	26,272	44,261	44,096	デマンド交通：26,760,012円 路線バス：17,336,277円		
	公共交通主体の利用促進の取り組み件数	多様な主体の連携・協働を取り組み内容から評価する。	増加	件/年	10	5	12	7	①路線バス乗り方教室の実施（認定こども園ひかり、認定こども園きぼう、本郷こども園、新鶴こども園）計4回 ②ギャラリーバスの運行（高田線、本郷線、新鶴線）計3回		職員出前講座「町内の便利な公共交通」については、申込がなかったため実施なし

(2) 報告事項① 会津美里町地域公共交通網形成計画に係る令和3年度 of 取組評価について

【資料2_追加資料】

方針	数値指標	目標値の設定根拠	目標値設定の考え方	単位	目標値(R7)	計画書記載現状値(H29)	令和2年度実績値	令和3年度実績値	取組評価
基本方針① 町民の生活と交流を支える地域公共交通の構築	路線バス利用者数	路線バスの利用者数から、町民の日常生活に必要な移動手段が維持・確保されているかを評価する。	現状維持	人/日	844	844	600	596	令和2年度と比較し、利用者が減少している。新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出自粛に加え、利用者層が固定化していることが考えられる。 路線バスについては、引き続きこども園園児向けのバス乗り方教室や出前講座等を開催し、コロナ収束後に向けたバスの利用促進を図る。 デマンド交通については、令和4年度から新システムを導入してアプリによる予約を可能とし、若年層の利用を促進し、さらなる利用者層の拡大を図る。
	美里あいあいタクシーの利用者数	地域内交通の利用者数から町民の移動ニーズに即しているかを評価する。	増加	人/年	28,000	24,954	23,133	22,235	
基本方針② 利用者ニーズに合わせた便利で快適な公共交通の構築	ユニバーサルデザイン車両の導入率	利用しやすい環境づくりが図られているかを評価する。	増加	%	100	60	84.3	82.1	交通拠点における乗降者数は、令和2年度に比べて減少しており、目標値の半分近くにまで減少している。 各公共交通機関の接続強化を図るため、デマンド交通について、令和4年11月から、希望時間に応じた予約方法を可能にし、他公共交通機関への接続強化を図る。
	交通拠点における乗り継ぎ環境の整備箇所数	乗り継ぎ拠点の整備状況から、まちづくりと連動した地域公共交通が構築されているかを評価する。	増加	カ所	8	3	6	6	
	交通拠点における乗降者数	乗り継ぎ拠点の利用状況から、まちづくりと連動した地域公共交通が構築されているかを評価する。	増加	人/日	50	39	39	27	
基本方針③ まちづくりと連動した地域公共交通の構築	多様な分野・主体と連携した利用促進の取り組み件数	多様な主体と連携した利用促進策の取り組みが展開されているかを評価する。	増加	件/年	3	1	5	4	例年教育分野との連携により、町内4こども園の園児に向けてバスの乗り方教室及びギャラリーバスを開催し、バスの利用促進を図っている。令和4年度11月からは、デマンド交通のアプリ予約が可能となるため、情報分野と連携し、スマートフォンの使い方教室等を併せてアプリの使い方教室を開催し、町内公共交通の利用促進を図る。
基本方針④ 将来的に持続可能な地域公共交通の構築	公共交通の運行に関する町負担額の維持	持続可能な公共交通網が形成されているかを評価する。	現状維持	千円/年	26,272	26,272	44,261	44,096	公共交通の運行に関する町負担額については、令和2年度と比較して横ばい状態であるが、目標値を大幅に上回っている。町の負担額を減少させるため、引き続き町内公共交通の利用を促進するための施策（出前講座、バス乗り方教室、デマンド交通へのアプリ予約導入）を展開する。 公共交通主体の利用促進の取り組み件数については、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う出前講座の開催自粛により、開催回数が増加した。令和4年度はデマンド交通に新システムが導入されるため、出前講座の内容が新しくなる。そのため広報やHP等により出前講座の注文を積極的に受け入れるよう周知を行う。
	公共交通主体の利用促進の取り組み件数	多様な主体の連携・協働を取り組み内容から評価する。	増加	件/年	10	5	12	7	